

# Kandai Style

2020.10 号外  
関西大学通信

新学長・新役職者決まる

# 第43代学長に前田裕教授が就任

7月1日、芝井敬司学長の任期満了に伴い、次期学長を選ぶ学長選挙会が行われました。その結果、システム理工学部の前田裕教授を選出。その後、理事会で承認され、10月1日付けで学長就任となりました。

そこで、今回の特集では、第43代学長に就任した前田学長に今後の抱負について語っていただきました。同じく、10月1日付けで就任した新役職者も併せて紹介します。



学長 システム理工学部教授  
前田 裕

2020(令和2)年10月に、第43代学長に就任いたしました。コロナ禍の困難な時期、長い歴史と伝統をもつ関西大学学長の職責の重さを痛感しております。

134年の歴史をもつ関西大学は、大学昇格、また、「学の実化」の提唱100周年を2022(令和4)年に迎えます。このような時期に、VUCA(Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性))の時代を象徴するようにコロナ禍が世界を変えています。この影響を受ける中、対応に終始するだけではなく、私たちは、この困難を新たな展開につなげなければなりません。関西大学の衆知を集めて、柔軟な発想で、教育・研究・社会連携の特色ある枠組みを提案、実施していきたいと思っております。いままでの実績を元に、コロナ禍を乗り越えて、国際社会に貢献できる関西大学を築き上げていきましょう。

学生の皆さん、そのご家族の皆さん、卒業生の皆さん、教職員の皆さん、本学に関わるすべての方々が、一員であること、また、支援していることを実感できる、誇りとすることができる関西大学を作っていきたいと思っております。引き続き、皆さまのご支援とご理解、ご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

## 前田 裕 学長の履歴

氏名	前田 裕(まえだ ゆたか)
学歴	1979(昭和54)年3月 大阪府立大学工学部卒業 1981(昭和56)年3月 大阪府立大学大学院工学研究科修士課程修了
学位	工学博士(大阪府立大学)
職歴	1979(昭和54)年4月 大阪府立高等学校教諭 1988(昭和63)年4月 関西大学助手(工学部) 1992(平成4)年4月 関西大学専任講師(工学部) 1995(平成7)年4月 関西大学助教授(工学部) 2002(平成14)年4月～現在 関西大学教授(工学部) ※2007年、工学部をシステム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部に改組 2008(平成20)年10月～2012(平成24)年9月 関西大学システム理工学部長 学校法人関西大学理事 2009(平成21)年10月～2012(平成24)年9月 関西大学大学院理工学研究科長 2012(平成24)年10月～2020(令和2)年9月 関西大学副学長 2012(平成24)年10月～2014(平成26)年12月 関西大学研究推進部長 関西大学社会連携部長 2015(平成27)年1月～2020(令和2)年9月 関西大学国際部長 2016(平成28)年10月～2020(令和2)年9月 学校法人関西大学常任理事 2020(令和2)年10月～現在 学校法人関西大学理事 関西大学学長

研究分野  
制御理論、コンピューター・シミュレーション・インテリジェンス

学外での主な役職  
公益財団法人関西生産性本部理事  
一般社団法人日本私立大学連盟国際連携委員会委員  
国際教育交流協議会(JAFSA)理事  
公益信託滝崎記念アジア留学生奨学金運営委員  
一般財団法人大阪科学技術センター参与

所属学会  
IEEE、電子情報通信学会、電気学会、計測自動制御学会、システム制御情報学会



前田新学長とともに新しく副学長と学長補佐に就任した先生方(左から堀井先生、佐々木先生、藤田先生、山本先生、前田学長、大津留先生、青田先生、高橋先生、岡田先生)

副学長					学長補佐		
化学生命工学部教授 あおた ひろゆき 青田 浩幸	法学部教授 おおつる ちえこ 大津留 智恵子	社会安全学部教授 たかはし ともゆき 高橋 智幸	文学部教授 ふじた たかお 藤田 高夫	環境都市工学部教授 やまもと ひでき 山本 秀樹	人間健康学部教授 おかだ ただかつ 岡田 忠克	経済学部教授 ささき やすゆき 佐々木 保幸	総合情報学部教授 ほりい やすし 堀井 康史

学部・研究科長・専攻長	学部・研究科長・専攻長	学部・研究科長・専攻長	学部・研究科長・専攻長	学部・研究科長・専攻長	学部・研究科長・専攻長	学部・研究科長・専攻長	学部・研究科長・専攻長	学部・研究科長・専攻長	学部・研究科長・専攻長							
法学部・法学研究科長 たかまさ まさひろ 高作 正博	文学部・文学研究科長・東アジア文化研究科長 ともたに ともき 友谷 知己	経済学部・経済学研究科長 きたはら さとし 北原 聡	商学部・商学研究科長 やだ かつとし 矢田 勝俊	社会学部・社会学研究科長 もりた まさや 森田 雅也	政策創造学部・ガバナンス研究科長 こにし ひでき 小西 秀樹	外国語学部・外国語教育研究科長 たけうち おさむ 竹内 理	人間健康学部・人間健康研究科長 むらかわ はるひこ 村川 治彦	総合情報学部・総合情報学研究科長 なとり りょうた 名取 良太	社会安全学部・社会安全研究科長 かわぐち としひろ 川口 寿裕	システム理工学部長 たくまさのり 宅間 正則	環境都市工学部長 かねきよ ひろあき 兼清 泰明	化学生命工学部・理工学研究科長 ながおか やすお 長岡 康夫	心理学研究科長 なかた ゆきしげ 中田 行重	法務研究科長 しもむら まさあき 下村 正明	会計研究科長 とみた さとし 富田 知嗣	心理学研究科・心理臨床学専攻長 おかだ ひろし 岡田 弘司

学生センター所長 化学生命工学部教授 まつむら よしのぶ 松村 吉信	学生センター副所長 法学部准教授 きん れい 金 玲	学生センター副所長 経済学部教授 いしい あきら 石井 光	学生センター副所長 人間健康学部教授 なだ ひでよ 灘 英世
---	-------------------------------------	--	---

# 2019年度 学校法人関西大学 決算の概要

現在、関西大学では「新型コロナウイルス感染症に対する事業活動等の基準」に基づき、学内で行われる諸活動の措置を判断しています。その結果、決算の概要は今号に掲載することとなりました。ご理解賜りますようお願い申し上げます。

## 1 はじめに

2019年度末から世界中を襲った新型コロナウイルス感染症の拡大により、本法人においても各設置学校における行事や授業を中止・変更せざるを得ない状況となり、学生の安全と修学機会を確保する観点から、最善の策を模索しながら取り組んでいるところです。

本学では、「経済的な理由により不本意に修学を断念する者を一人も出さない。」という考えのもと、種々の修学支援策を講じてまいりました。8月6日には、「関大生未来支援プロジェクト」の始動をウェブサイトにて広く周知し、夢や目標達成に向けて意欲をもって取り組む学生を支援する「ゆめサポーター夢実現支援金」をはじめ、「緊急奨学支援金—新型コロナ急変奨学金—」、「外国人留学生の学びのための野田奨励金」の新たな支援金の募集を実施することとなりました。

終息の見えない新型コロナウイルス感染症に対して、引き続き、学内における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減したうえで持続的に教育研究活動を行い、教育研究環境の質向上と財政基盤の両立を図るべく取り組んでまいります。

## 2 事業の概要

2019年度に実施した事業のうち主なものは、次のとおりです。

### (1) 教育研究活動

#### ア SDGsの推進

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で掲げられた世界目標「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成に向けて、学長のもとに「SDGs推進プロジェクト」を設置し、分野横断的で多彩な活動を推進しています。

2019年度は、SDGsの理念・内容を精査し、「SDGsに関する関西大学の行動指針」を策定して公表しました。また、SDGs推進プロジェクトの具体的な活動として、SDGsに関する意識調査アンケート、関西大学SDGsフォーラム、各部署のエコマネージャーを対象としたSDGs研修会、大阪府大・大阪市大・本学の連携によるSDGsシンポジウムなどを実施するとともに、教職員と学生がともに学ぶSD研修プログラム、本学図書館によるさまざまな取り組みにも協力しました。

なお、これらの取り組みについては、リニューアルしたウェブサイト【[www.kansai-u.ac.jp/sdgs/](http://www.kansai-u.ac.jp/sdgs/)】にて広く情報発信しています。

#### イ BYOD(Bring Your Own Device)の推奨に伴う学習環境整備

2019年度入学生から、自律的に学ぶ力を育成するために、学生がノートパソコン等を持参して学ぶBYODを推奨しています。レポート

やプレゼンテーション資料の作成、学習支援システム(LMS)の活用、e-Learningを用いた自学自習等、日常的な学習活動においてノートパソコン等の活用を促進しました。無線LAN、Microsoft Office、ウイルス対策ソフト、Webメール、Dropbox等を利用できる学習環境の整備を行うとともに、「パソコン相談コーナー」を全キャンパスに設け、ソフトウェアのインストール、各種設定等の質問に答え、学生の主体的な学びを支援しました。

#### ウ 文部科学省「大学の世界展開力強化事業(COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援)」の展開

5年計画の2年目にあたる2019年度は、グローバル教育イノベーション推進機構(IIIGE)において、COILの授業を受けた学生の教育効果を検証するアセスメントルームの設置、COILを実践する教員をマッチングするサイトImmerseUの構築といった基盤整備を行いました。ImmerseUの利用方法や教育効果を測るサイトBEVIとCOILを融合した教育手法など、COILに関するさまざまな技法・知識を修得できるトレーニングプログラム、セミナー、ワークショップ等を国内外で実施しました。

COIL型教育を活用したプログラムとしては、8月に日本・韓国・ロシアを周遊する大型客船に世界中の学生が一堂に会するUMAP-COIL Joint Honors Programを実施しました。また、COIL Plus Programを開発し、国際部主催の派遣プログラムを2月に実施したほか、学部・研究科においてもCOIL型教育を活用した派遣・受入プログラムが行われました。



【UMAP-COIL Joint Honors Program】

#### エ 集中英語講座[KU Intensive Communication Camp (KUICC)]の導入

2019年度から新たなプログラムとして改編された「KUICC」を、夏期及び春期に実施しました。英語でのコミュニケーションに苦手意識のある初心者向けのGeneralコースと、海外留学や海外での就職を意識した上級者向けのAdvancedコースの2コースがあり、いずれも本学の特任外国語講師が担当し、全講義を英語で行いました。国内で手軽に「留学体験」できるプログラムとして学生の需要も高く、いずれの日程も定員を超える申し込みがありました。

#### オ 外国語学部創設10周年記念事業の実施

外国語学部は2019年4月に創設10周年を迎え、10月11日にニューサウスウェールズ大学のアンディ・ガオ氏を招へいし、「Open new doors in life through learning languages」と題した記念講演会を行いました。また、台風19号による荒天のため中止となった記念式典及び講演会の代替行事として、12月20日に式典当日に講演いただく予定であった、つくば言語技術教育研究所長の三森ゆりか氏を招へいし、「外国語の基礎として必要な日本語スキル」と題した講演会を行い、外部からも多数の聴講者がありました。



【記念講演会】

#### カ 総合情報学部創設25周年記念事業の実施

総合情報学部は2019年4月に創設25周年を迎え、「関西大学総合情報学部 創設25周年記念誌」を発行しました。記念事業としては、記念シンポジウム等を開催するとともに、4月28日には、大学関係者、学外関係者並びに総合情報学部同窓生を招いてプロジェクトマッピングなど総合情報学部らしい映像を用いた記念式典を挙行政し、未来へ向けてさらなる発展を願いました。式典後は大同窓会が開催され、各種イベントも開催され、盛会裏に終了しました。



【記念誌の表紙】

#### キ 文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の推進

2016年度選定の「KU-SMART PROJECT「人に届く」関大メディカルポリマー(KUMP)による未来医療の創出」は、研究面では、実施計画に基づき順調に進捗しており、研究成果である医療器材・医療システムの実用化を目指した活動も行っています。

広報面では、医学部のない本学で医療に関わる研究を行っている点を受験生向けに広く周知を行い、2019年度はKUMP型AO入試の合格者が化学生命工学部に入学しました。また、日本バイオマテリアル学会のランチョンセミナーにおいて、研究代表者の大矢裕一教

授が本事業を紹介し、学外の研究者に対し、認知度の向上を目指した広報を行いました。



【日本バイオマテリアル学会ランチョンセミナー】

2017年度選定の「オープン・プラットフォームが開く関大の東アジア文化研究(KU-ORCAS)」は、研究のリソース・グループ・ノウハウ・成果、これら4つのオープン化を目指して活動を展開しています。2019年度は、東アジア文化研究オープン・プラットフォームシステムを稼働させ、国際規格IIIF(トリプルアイエフ)に準拠したデジタルアーカイブの充実を図り、国際シンポジウムも開催しました。また初の試みとして、パチカン図書館収蔵の日本関連史料のデジタル化に向けて、クラウドファンディングを活用することとしました。

広報面では、「世界的な東アジア文化研究を牽引する関西大学」を本学のブランドとして確立するため、オープンキャンパス等において、本プロジェクトの活動の一端を紹介するなど、学生や一般市民に向けて、認知度の向上を図りました。



【パチカン図書館閲覧室】

#### ク 就職状況・キャリア形成支援について

2020年4月新卒採用は、日本経済団体連合会が「採用選考に関する指針」を示す最終年となり、企業側の採用競争が激化する中で新卒採用ニーズは依然高い水準を維持しました。また、学生はインターンシップを中心に業界や仕事研究を積んで選考フェーズに進むケースが定着しました。そのような環境の中、さまざまな支援プログラムを実施し、2019年度卒業生の就職率は前年度比0.4%増の98.9%となりました。

3年次生に対しては、より広い視野を持って「仕事」と向き合い、社会で活躍できるようインターンシップガイダンス及び同セミナー等を開催し、さらに採用担当者と学生との出会いの場としての業界研究セミナー及び合同企業研究セミナーを実施しました。無料の「就職模擬試験」の実施や、エントリーシート対策、模擬面接対策など、就職支援策においてもさらなる充実を図りました。1・2年次生に対してもキャリア形成支援を充実させ、関大枠インターンシップへの参加を推奨したほか、新たにキャリアデザイン夏合宿を実施しました。

エクステンション・リードセンターでは、英語、公務員、司法、会計職、SPI試験対策、そのほか資格講座など合計13講座を開設し、年間延べ2,996名が受講しました。公務員講座受講生が本学公務員就職者数の約6割を占めたほか、難関国家試験のひとつである公認会計士試験では受講生から13名の合格者を輩出しました。各資格講座についても全国平均を大きく上回る合格率を維持し、学生ニーズに対応しつつ実成果を上げています。

## (2) 教育研究環境の整備充実関係

「特別高圧」と「高圧」の2系統ある千里山キャンパスの受電系統について、停電リスクの低い地中線路による「特別高圧」受電に統一する自営線を構築するとともに、吹田変電所に加え、味生変電所（摂津市）から特別高圧受電線の予備電源供給設備を敷設し、送電変電所の複数化を図ります。2019年度は、既存の特別高圧受電エリアから一高・一中エリア及び第3学舎エリアへの配管埋設等の工事を実施しました。

また、老朽化の進んでいる千里山キャンパスの光通信ネットワークについて、最大100Gbpsに対応できる、柔軟で拡張性・強靱性のある光通信ネットワークを再構築するため、2019年度は各所にスター型基幹ネットワークを敷設しました。

## 3 収支計算書

学校法人は、文部科学省令の「学校法人会計基準」に基づき、財務計算に関する下記の計算書等を作成することになっています。

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容を明らかにし、かつ、支払資金の収入・支出のてん末を明らかにするものです。資金の動きのすべてが計算の対象となります。

「事業活動収支計算書」は、学校法人の諸活動に伴う収支を経常的な収支と臨時的な収支に区分し、それぞれの収支の均衡状況とその内容を明らかにすることによって、学校法人の経営状況が健全に維持されているかどうかを示すものです。

「貸借対照表」は、学校法人の一定時点（決算日）における資産、負債、純資産の財政状態を示すものです。

「財産目録」は、「貸借対照表」を基準にして組み替えて作成したものです。

「監査報告書」には、私立学校法第37条第3項第3号に基づく監事による「監事監査報告書」および私立学校振興助成法第14条第3項に基づく監査法人による「独立監査人の監査報告書」があります。

ここでは紙幅の関係上、計算書類の総括表のみ掲載しておりますが、「関西大学ウェブサイト」に財産目録などの詳細な財務情報を掲載しておりますので、ご覧ください。

【www.kansai-u.ac.jp/zaimu/】

## 4 収支決算の概要

### (1) 資金収支決算

2019年度資金収支決算は、6ページに掲載の「資金収支計算書（総括）」のとおりです。

資金収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、補助金収入などの法人に帰属する収入のほか、前受金収入なども含め、521億8,233万6,209円となりました。

資金支出は、教職員の人件費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費、施設設備費のほか、借入金返済などの支出を含め、514億6,141万3,645円となりました。この結果、収支差引き7億2,092万2,564円の収入超過となり、これに前年度繰越支払資金141億3,876万8,749円をあわせた結果、翌年度繰越支払資金は、148億5,969万1,313円となりました。

### (2) 事業活動収支決算

2019年度事業活動収支決算は、6ページに掲載の「事業活動収支計算書（総括）」のとおりです。

経常的な収支のうち、教育及び研究活動の収支状況を表す教育活動収支では、学生生徒等納付金、手数料、経常費等補助金などの教育活動収入から、教職員の人件費や教育研究経費などの教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額が15億3,484万1,146円の収入超過となり、予算に対し2億965万4,146円の増となりました。また、主に財務活動の収支状況を表す教育活動外収支差額は5億9,691万3,373円の収入超過となりました。この結果、経常収支差額は21億3,175万4,519円の収入超過となり、予算に対し3億6,697万9,519円の増となりました。これに施設設備にかかる補助金、資産の売却や処分等の臨時的な収支を表す特別収支差額2億3,972万4,104円の収入超過を加えた基本金組入前当年度収支差額は23億7,147万8,623円の収入超過となり、予算に対し9億7,603万7,623円増加しました。

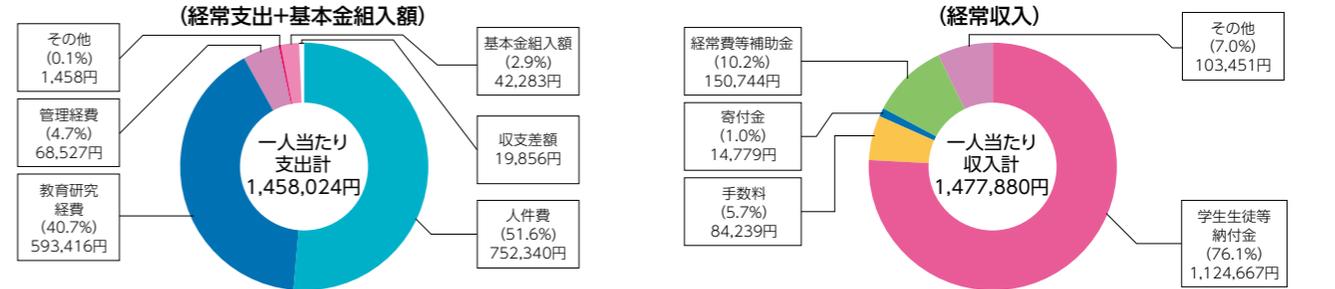
一方、基本金組入額は、施設設備あるいは将来の施設取得に係る積立金や基金などに充当するもので、14億4,898万7,562円となり、予算に対し4億69万8,438円の減となっています。

2019年度決算における事業活動収支の均衡状況を表す当年度収支差額は、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を差し引いた9億2,249万1,061円の収入超過となり、予算に対し13億7,673万6,061円改善しました。この結果、当年度収支差額と前年度繰越収支差額の合計から、翌年度繰越収支差額は237億9,719万6,287円の支出超過となりました。

### (3) 貸借対照表

2019年度末（2020年3月31日）現在の資産、負債、純資産の財政状態を示しています。

## 2019年度 事業活動収支決算における「学生生徒等一人当たりの経常的な支出とこれを賄う収入」



(注) 1 事業活動収支決算における経常的な支出(教育活動支出、教育活動外支出、基本金組入額)及び収入(教育活動収入、教育活動外収入)の決算額を、科目ごとにそれぞれ学生数34,386人(大学院・学部・留学生別科・高校・中学校・小学校・幼稚園の学費納入者合計)で除して、学生生徒等一人当たりの平均値を示したものである。  
2 「基本金組入額」とは、校地、校舎、機器備品、図書などの取得、あるいは、そのための借入金の返済、又は将来取得のための積立金などの主として資本的支出に充てる額である。

## 資金収支計算書(総括) 2019年4月1日から2020年3月31日まで

支出の部				収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
1 人件費支出	26,029,975,000	25,974,741,233	55,233,767	1 学生生徒等納付金収入	38,511,503,000	38,695,363,441	△ 183,860,441
2 教育研究経費支出	14,328,725,000	14,627,428,803	△ 298,703,803	2 手数料収入	2,728,437,000	2,901,910,800	△ 173,473,800
3 管理経費支出	1,847,824,000	2,151,714,883	△ 303,890,883	3 寄付金収入	470,000,000	496,440,979	△ 26,440,979
4 借入金等利息支出	23,650,000	23,439,035	210,965	4 補助金収入	5,218,054,000	5,352,356,126	△ 134,302,126
5 借入金等返済支出	1,297,190,000	1,297,190,000	0	5 資産売却収入	42,550,000	72,086,176	△ 29,536,176
6 施設関係支出	1,177,634,000	767,441,681	410,192,319	6 付随事業・収益事業収入	1,078,727,000	1,263,490,936	△ 184,763,936
7 設備関係支出	1,635,637,000	1,618,986,075	16,650,925	7 受取利息・配当金収入	463,238,000	620,352,408	△ 157,114,408
8 資産運用支出	2,685,442,000	4,021,171,414	△ 1,335,729,414	8 雑収入	1,392,848,000	1,647,674,936	△ 254,826,936
9 その他の支出	2,777,261,000	2,922,427,230	△ 145,166,230	9 借入金等収入	0	0	0
10 予備費	500,000,000	-	500,000,000	10 前受金収入	6,549,577,000	6,954,711,143	△ 405,134,143
11 資金支出調整勘定(小計)	△ 1,616,806,000	△ 1,943,126,709	326,320,709	11 その他の収入	2,179,020,000	2,062,166,956	116,853,044
12 翌年度繰越支払資金	14,444,891,000	14,859,691,313	△ 414,800,313	12 資金収入調整勘定(小計)	△ 7,641,300,000	△ 7,884,217,692	242,917,692
				13 前年度繰越支払資金	50,992,654,000	52,182,336,209	△ 1,189,682,209
					14,138,769,000	14,138,768,749	251
支出の部合計	65,131,423,000	66,321,104,958	△ 1,189,681,958	収入の部合計	65,131,423,000	66,321,104,958	△ 1,189,681,958

(注) 予算の流用を含む。

## 事業活動収支計算書(総括) 2019年4月1日から2020年3月31日まで

事業活動収支				
科目	予算	決算	差異	
1 学生生徒等納付金	38,511,503,000	38,695,363,441	△ 183,860,441	特別収支差額
2 手数料	2,728,437,000	2,901,910,800	△ 173,473,800	
3 寄付金	477,000,000	483,388,988	△ 6,388,988	
4 経常費等補助金	5,203,454,000	5,207,698,126	△ 4,244,126	
5 付随事業収入	1,078,727,000	1,263,490,936	△ 184,763,936	
6 雑収入	1,392,848,000	1,646,184,139	△ 253,336,139	
教育活動収入計	49,391,969,000	50,198,036,430	△ 806,067,430	
1 人件費	25,888,323,000	25,876,130,295	12,192,705	特別収支差額
2 教育研究経費	20,124,838,000	20,412,731,686	△ 287,893,686	
3 管理経費	2,053,621,000	2,367,004,703	△ 313,383,703	
4 徴収不能額等	0	7,328,600	△ 7,328,600	
教育活動支出計	48,066,782,000	48,663,195,284	△ 596,413,284	
教育活動収支差額	1,325,187,000	1,534,841,146	△ 209,654,146	
1 受取利息・配当金	463,238,000	620,352,408	△ 157,114,408	特別収支差額
2 その他の教育活動外収入	0	0	0	
教育活動外収入計	463,238,000	620,352,408	△ 157,114,408	
1 借入金等利息	23,650,000	23,439,035	210,965	
2 その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	23,650,000	23,439,035	210,965	
教育活動外収支差額	439,588,000	596,913,373	△ 157,325,373	
経常収支差額	1,764,775,000	2,131,754,519	△ 366,979,519	

(注) 予算の流用を含む。

## 貸借対照表 2020年3月31日

貸借対照表			
科目	2019年度末	2018年度末	増減
資産の部			
固定資産	210,253,496,944	210,597,081,209	△ 343,584,265
有形固定資産	111,333,869,115	114,873,681,895	△ 3,539,812,780
特定資産	96,742,961,873	93,136,446,785	3,606,515,088
その他の固定資産	2,176,665,956	2,586,952,529	△ 410,286,573
流動資産	16,819,393,031	15,741,814,943	1,077,578,088
資産の部 合計	227,072,889,975	226,338,896,152	733,993,823
負債の部			
固定負債	16,353,476,144	17,947,692,834	△ 1,594,216,690
流動負債	10,789,916,995	10,833,185,105	△ 43,268,110
負債の部 合計	27,143,393,139	28,780,877,939	△ 1,637,484,800



## **関西大学通信 “KANDAI STYLE”**

発行日:2020年10月1日

発行:関西大学広報委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話:06-6368-1121 (大代表)